北九州工業高等専門学校		開講年度	令和05年度 (2023年度)	授業科目	英語表現 A I
科目基礎情報					
科目番号	0021		科目区分	一般 / 必修	
授業形態			単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	生産デザイン工学科 (知能ロボットシステムコース)	対象学年	1		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	My Way Logic and Expression I、サブノート、ワークブック (三省堂) / Evergreen (いっぴな書店)				
担当教員	原田 洋海				
到達目標					
1. 英語の基本語彙と文法項目 (高1レベル) を理解できる。 2. 多様な機能・場面に応じた表現を理解でき、それを参考に自分の言葉で表現できる。 3. TOEIC Bridgeで65点相当の点数を取ることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	高校1年生程度の基本語彙と文法項目を理解することができる。	高校1年生程度の基本語彙と文法項目をおおむね理解することができる。	高校1年生程度の基本語彙と文法項目を理解することができない。		
評価項目2	多様な機能・場面に応じた表現を理解でき、自分の言葉で表現できる。	多様な機能・場面に応じた表現をおおむね理解でき、自分の言葉で多少のミスはありつつ表現できる。	多様な機能・場面に応じた表現を理解できず、自分の言葉で表現できない。		
評価項目3	TOEIC Bridgeで65点以上の点数を取ることができる。	TOEIC Bridgeで65点に近い点数を取ることができる。	TOEIC Bridgeで65点には遠い点数しか取れない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	英語を理解し使用するために必要な、基本的かつ重要性の高い文法事項を身につける。また、機能や場面に応じた相応しい英語表現を身につけ、それを使って自分の言葉で表現できる。				
授業の進め方・方法	講義と演習を組み合わせる授業を進める。テキスト、辞書を必携のこと。サブノートとワークブックの使用方法については、最初の授業時に説明する。参考書は、自宅での予復習に活用すること。小テストは、随時実施する。その他、適宜課題を課す。				
注意点	必ず予習をして授業に臨むこと。 辞書を必ず持参すること (オンライン辞書でも可)。				
授業の属性・履修上の区分					
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応	
☐ 実務経験のある教員による授業					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、Lesson 1 Let's Talk about Ourselves Part 1	授業の進め方、予習・復習の仕方、評価方法などを理解する。be動詞について理解し適切に使える。初対面の人のやり取りが英語でできる。	
		2週	Lesson 1 Let's Talk about Ourselves Part 2	一般動詞について理解し適切に使える。英語で簡単な自己紹介ができる。	
		3週	Lesson 2 School Life Part 1	動詞の過去形を理解し適切に使える。好きだった科目について英語で話せる。	
		4週	Lesson 2 School Life Part 2	現在進行形、過去進行形を理解し適切に使える。自分の学校の部活動について英語で紹介できる。	
		5週	Lesson 3 The Arts Part 1	未来のことを表す表現を理解し適切に使える。週末の予定について英語で話せる。	
		6週	Lesson 3 The Arts Part 2	英語の基本的な時制について理解し適切に使い分けができる。自分の好きな絵について英語で発表できる。	
		7週	6週目までのふりかえり、Special Activities	6週目までの内容について復習を行い理解の定着を図る。自分の学校や町を英語で紹介できる。様々な図形について英語で表現できる。	
		8週	中間試験	1～7週目までの内容を網羅した試験により授業内容の理解の定着を図る。	
	2ndQ	9週	中間試験の解説	定期試験の内容を復習し、さらなる理解の定着を図る。	
		10週	Lesson 4 Food and Culture Part 1	現在完了形 (完了、経験) について理解し適切に使える。英語で料理を注文できる。	
		11週	Lesson 4 Food and Culture Part 2	現在完了形 (継続)、現在完了進行形について理解し適切に使える。日本の食文化について簡潔な英文が書ける。	
		12週	Lesson 5 Welcome to Our Town Part 1	様々な助動詞について理解し適切に使える。道案内の会話が英語でできる。	
		13週	Lesson 5 Welcome to Our Town Part 2	受動態について理解し適切に使える。地域の特徴やマスコットキャラクターについて英語で発表できる。	
		14週	13週目までのふりかえり、Special Activities	13週目までの内容について復習を行い理解の定着を図る。料理の作り方を英語で説明できる。英語で観光案内ができる。	
		15週	定期試験	9～14週までの内容を網羅した試験により授業内容の理解の定着を図る。	

		16週	定期試験の解説	定期試験の内容を復習し、さらなる理解の定着を図る。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	英語	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	1	前1,前2,前3
				明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	1	前3,前6,前11,前13,前14
				中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
				中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	1	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16
			英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	1	前2,前3,前4,前5,前10,前11,前12,前13,前14
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	1	前2,前3,前5,前7,前10,前11,前12,前13,前14
				説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	1	前3,前4,前5,前6,前10,前11,前12,前13
				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	1	前2,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前15,前16
		日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。		1	前4,前6,前11,前13	
		母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。		1	前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14	
		実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。		1	前5,前6,前7,前10,前11,前12,前13,前14	
		英語運用能力向上のための学習		自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	1	
			英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	1		
			英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	1		
			母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	1		
			関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	1		
			関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつなげる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	1		
			関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	1		
			英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつなげるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	1		
		実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	1			

分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	1	前2,前3,前4,前5,前6,前10,前11,前12,前13
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で正しい文章を記述できる。	1	前4,前6,前10,前11,前12,前13
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	1	前2,前3,前4,前5,前6,前10,前11,前12,前13,前14
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	1	前6,前12,前13,前14
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	1	前7,前12,前14
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相づち、繰り返し、ボディランゲージなど)。	1	前3,前4,前5,前6,前11,前12,前13,前14
				他者の意見を聞き合意形成することができる。	1	
				合意形成のために会話を成立させることができる。	1	
				グループワーク、ワークショップ等の特定の合意形成の方法を実践できる。	1	

評価割合

	試験	小テスト等	演習・レポート	発表	相互評価	その他	合計
総合評価割合	70	10	20	0	0	0	100
基礎的能力	70	10	20	0	0	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0